

今回はSL(short lecture)通算第48回目。8章の剛体系の拘束方程式の内容を十五回にわたって講義している。今回はその四回目として二つの物体間の拘束式のうち、ユニバーサルジョイントについて学ぶ。 2024.07.18 清水

(b) ユニバーサルジョイント

図8.4にユニバーサルジョイント(フックジョイント)を示す。点 B は物体 i 上の点 B_i と物体 j 上の点 B_j の共通の点である。クロス(十字)の上下方向の部分は物体 i に、クロスの残りの部分は物体 j に含まれている。物体 i 内の点 C_i を $\overline{B_i C_i} = 1$ となるようにクロスの中心軸にとると $\overline{B_i C_i}$ は x'_i 軸の基底ベクトル $\vec{\mathbf{b}}_x^{(i)}$ となる。同様に物体 j 内の点 C_j をとり、 $\overline{B_j C_j}$ を z'_j 軸の基底ベクトル $\vec{\mathbf{b}}_z^{(j)}$ とする。 $\overline{B_i C_i}$ と $\overline{B_j C_j}$ を互いに直交させる。ユニバーサルジョイントの拘束式は、物体 i

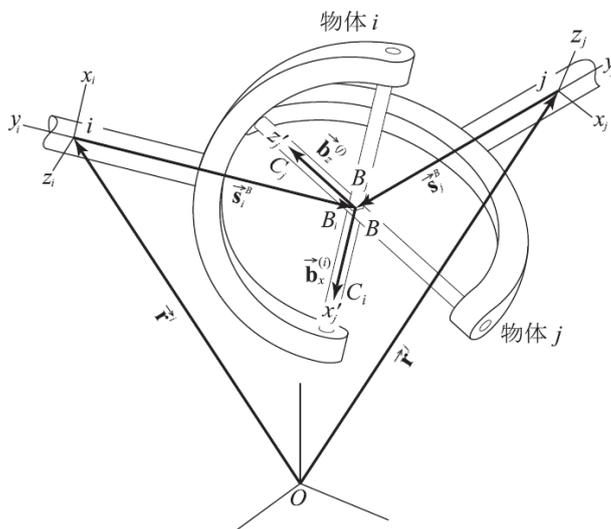


図8.4 ユニバーサルジョイント

上の点 B_i と物体 j 上の点 B_j が点 B で一致しているという条件と、 $\vec{\mathbf{b}}_x^{(i)} = \mathbf{e}^{(o)T} \mathbf{b}_x^i$

と $\vec{\mathbf{b}}_z^{(j)} = \mathbf{e}^{(0)T} \mathbf{b}_z^j$ が直交しているという条件より式(8.20)と(8.21)となる。なお記号の約束として $\mathbf{b}_{O_x}^i, \mathbf{b}_{O_z}^j$ と書くべきところを $\mathbf{b}_x^i, \mathbf{b}_z^j$ と簡略化している。

$$\mathbf{C}^{(s)}(B_i, B_j) \equiv \mathbf{r}^j + \mathbf{A}^{Oj} \tilde{\mathbf{s}}_j^{IB} - \mathbf{r}^i - \mathbf{A}^{Oi} \tilde{\mathbf{s}}_i^{IB} = \mathbf{0} \quad (8.20)$$

$$\mathbf{C}^{(n1)}(\mathbf{b}_x^i, \mathbf{b}_z^j) \equiv \mathbf{b}_x^{iT} \mathbf{b}_z^j = 0 \quad (8.21)$$

この拘束式の仮想変位はそれぞれ式(8.20)'と(8.21)'となる。

$$\delta \mathbf{C}^{(s)}(B_i, B_j) = \delta \mathbf{r}^j - \mathbf{A}^{Oj} \tilde{\mathbf{s}}_j^{IB} \delta \theta^{Oj} - \delta \mathbf{r}^i + \mathbf{A}^{Oi} \tilde{\mathbf{s}}_i^{IB} \delta \theta^{Oi} = \mathbf{0} \quad (8.20)'$$

$$\delta \mathbf{C}^{(n1)}(\mathbf{b}_x^i, \mathbf{b}_z^j) = \mathbf{b}_x^{iT} (\mathbf{A}^{Oi})^T \mathbf{A}^{Oj} \tilde{\mathbf{b}}_z^{Ij} \delta \theta^{Oj} + \mathbf{b}_z^{jT} (\mathbf{A}^{Oj})^T \mathbf{A}^{Oi} \tilde{\mathbf{b}}_x^{Ii} \delta \theta^{Oi} = 0 \quad (8.21)'$$

(なお、式(8.20)'は(8.19)と式(8.21)'は式(8.11)と同一である。)